

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271202606		
法人名	株式会社めいとケア		
事業所名	グループホームめいと中金杉		
所在地	千葉県松戸市中金杉2-72番地		
自己評価作成日	令和 7 年 2 月 22 日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人人材パワーアップセンター
所在地	千葉県松戸市稔台一丁目25番地6
訪問調査日	令和 7 年 3 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの本来の役割は、共同生活を通じて自立を支援しそれにより認知症の進行を抑制するというものですが、グループホームでの暮らしが長くなりグループホームを終の棲家とする人が多くなった昨今、当施設においても入居期間が10年を超える人が珍しくなくなってきました。このような人に対する人生の終焉を迎える施設としての対応(看取り介護)も当施設の重要な役割になってきています。当施設では、この両者の役割を円滑に達成するべく職員の研修・配置に力を入れております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は常に清潔な環境を整えており、利用者の家族からも高く評価されています。重要なテーマを扱う社内研修は、シフトを考慮して数日にわたり実施し、全職員が受講できるよう配慮しています。また、職員は毎日、自己評価採点(1項目10点満点)を行い、業務遂行能力の向上とモチベーションの維持・向上を図ることで、質の高い介護サービスの提供につなげています。利用者には、単調になりがちな日々の生活リズムに変化や刺激を与える多くの機会が設けられています。例えば、昼食後に童謡を歌ったり、玉入れなどのゲームで両手を動かすなど、静と動のメリハリをつけた活動を取り入れています。地域住民との交流も盛んで、町会の夏祭りに参加したり、日本舞踊のグループを招いたり、カラオケ大会と一緒に楽しむ機会を設けています。また、施設長が講師となり、認知症やグループホームの活動について地域住民へ周知する取り組みも行っています。これらの活動は、利用者の生活の充実だけでなく、地域社会とのつながりを深める重要な役割を果たしています。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の掲げる6つの理念のひとつに「地域に開かれた施設であり続けること」があり、職員研修では、この理念を具体化する試みを行っている。	施設では6つの運営理念「個人の尊厳の維持」「これまで生きて来られた人生の尊重」「自立と残存能力活用の支援」「共同生活における楽しさの追求」「開かれた施設の追求」「地域との交流推進」を掲げ、それぞれを具体的な活動へとつなげています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の代表者が地域自治会の役員として活動し、お祭りや清掃等地域の行事に参加。また、地域自治会の防災訓練にも地域の一員として参加し、自治会の1つの「組」として認知されている。	開所20年を経て地域と密接な関係を構築しています。カラオケ大会「まつ会」、日本舞踊チームの「きく会」のイベント交流や施設長の自治会役員としての活動を通じて、地域密着の施設となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の特色とその介護の手法について、地域住民に向けた講演会を何度か開催しており、今後も要請があれば開催する予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月月に1回開催している運営推進会議では毎回テーマを設け活発な意見交換が行われている。出席者は30名近くとなっている。	運営推進会議は2か月に1回実施しています。利用者家族の出席も多く、今年の1月の開催では12名もの家族が参加しています。施設長が毎回、重要で関心を引くテーマを選ぶ工夫を凝らすことで意義ある会としています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月1回介護相談員の来訪を受け入れるとともに、分からないことや困ったことが生じた場合には、躊躇することなく市の担当者に相談し解決している。	運営推進会議には地域包括支援センター職員が毎回参加するため、施設の運営状況を的確に伝え、情報交換を行っています。また松戸市介護保険課の担当者も年に1度参加しますが日常的に連絡を密に取り行政との関係を良好に保っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な項目については繰り返し社内研修している。身体拘束を回避する方策としての「代替手段」の発見能力を常に磨いている。	社内研修はシフトを踏まえ、全員に行き渡るよう、数日実施しています。日常の介護の中で禁止の対象になりそうな言動は施設長がその場で正すことで、職員の理解を深めています。施設の施錠はなく、拘束に関する運用は適切に守られた運営となっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関しては繰り返し社内研修テーマとして取り上げており、職員の虐待に対する意識を研ぎ澄ませている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は弁護士による成年後見制度を研修済みであり、「成年後見制度について」の説明会も行っている。個々のケースを通じて職員にも具体的に理解してもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結にあたっては、契約書・重要事項説明書をもとに、納得されるまで十分に説明している。解約の条件についても明確にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置していますが、利用実績はなく、利用者や家族などの意見・要望は直接施設長や職員が受けています。また、運営推進会議への多くの家族参加があり、常に開かれた運営を実践しています。	家族から「もっと戸外に連れ出してほしい」「遅い時間の食事対応について柔軟な対応をして欲しい」といった意見がありました。これらについて、工夫や調整を検討し、より満足度の高いサービス提供に期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員との対話を重視し、職員の意見・相談には必ず耳を傾けるようにしている。よい提案については、運営に反映させている。	施設長は職員が毎日行う自己採点表を確認して職員の勤務状況を把握しています。自己評価内容を通じて職員への指導やアドバイスを行うとともに、日常の対話を大切にして、それぞれの意見・要望を施設運営に生かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や勤務状態などは、職員の給与決定に関する参考資料として代表者に提出されており、昇給・賞与などの決定において反映される。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員の特質を見極め、特質に応じて、その成長に向けた研修の機会を提供すべく配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会・認知症研修会に管理者が出席し、同業者と交流を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居にあたっては、必ず、本人との面接の中から本人の不安や要望の声を聞き、提供するサービスに反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に先立ち、ご家族から本人のこれまでの生活状況の説明を受けるとともに、入居直後からしばらくの間は、本人の様子を細かく頻繁に伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接により、本人がまず必要としている支援を把握し、ご家族とさらに話し合ったうえで必要な支援を見極めていくように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人の残存能力活用を常に心におき、本人が一方向的に介護を受ける立場にならないよう絶えず配慮し、本人が自分でやるのを見守るという姿勢を基本としている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への連絡を密にし、本人の変化に対しては、家族と連絡をとりつつ、必要な場合は家族の協力を得ることも予定している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や友人の訪問に対してはおもてなしの心で接するようにしている。電話の取り次ぎには便宜を図るようにしている。	家族に限らず地域に根づいた施設として近所からの訪問客も頻繁にあります。以前の利用者家族も訪問してくるなど心地よい、開かれた居場所となっています。訪問客は明るく開放的なリビングや利用者の居室を使って過ごしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を把握し、リビングテーブルの配置や着席位置に工夫をしている。必要に応じて職員も会話の中に入るように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された利用者に対し、その後の様子などを電話で伺うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から本人の思いや意向の把握に努めている。本人から聞き取ることが困難な場合は、ご家族から本人の自宅で生活していた頃の様子を聞き、参考にしている。	利用者の状況を把握して職員間には連絡帳をもとに途切れない介護に努めています。同一福祉サービス施設在籍年数10年以上の該当者として松戸市から表彰された職員が3名、待機職員も多数いるため、レベルの高い介護を提供しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活ぶりについて、担当介護支援相談員から情報のほか、本人の若き日の生活状況や趣味嗜好をご家族から教えてもらうよう務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	昼間は、リビングルームで過ごす人が多く、各入居者の1日の過ごし方、心身の状態は絶えず把握できている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	帰宅願望の強い利用者に対して、家族と協力し、電話による寸劇を行い本人を安心させるなど、家族と連帯して介護あたることも含めて、柔軟に対応できるケアプランを作成している。	重度の帰宅願望者に対して施設長をはじめ、職員の寸劇などで安心感を与える工夫をするなど、質の高い介護施設として支援が難しい利用者を受け入れています。ケアプランも同様に利用者に適した計画作りをし、利用者と家族が安心できる生活を維持しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には各職員が自由に書き込んでおり、各自の気づきは記録に残るようになっている。職員は介護に先立ち、必ず個別記録を読むことを強く指導している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の変化に対応したサービスを提供することを重視し、既存のサービスにとらわれない柔軟な対応を工夫している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日本舞踊・脳トレ音楽療法の定期的訪問により、心身の力を発揮しながら、安全で豊かな暮らしを楽しむように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関への受診にあたっては、医師に家族の希望を伝え、家族が納得したうえでの治療が行われるようにしている。	協力医療機関へ受診する際は、家族の希望を聞き、納得した上で治療を受けられるよう支援しています。24時間対応の看護師との連絡体制も整っています。入居前から受診をしているかかりつけ医(眼科)への同行は家族にお願いしています。緊急搬送の場合は家族と連絡を取り、職員が同行し病院で家族と待ち合わせます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調の変化に関しては、介護職員が細心の注意を払い、24時間対応で介護職から看護師への連絡体制が構築され、看護師の指示や看護を受ける体制が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は、病院内のソーシャルワーカーと連絡を取り、本人の施設内での生活状況についての情報提供を行っている。退院後の受け入れ態勢については病院と事前に話し合いをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期に至った場合について一般的説明を行い、入居後その時が近づいたときに、協力医療機関立ち会いの下で今後の介護のあり方について話し合いを行うようにしている。	入居時に重度化や終末期に向けての一般的な説明を行い、同意書を得ています。看取りの時期が近づいた時に協力医療機関立ち会いの下、今後の介護の在り方について話し合うなど連携しています。直近で2月に看取り介護があり、家族はほぼ毎日面会に来ていました。職員全員が「看取り介護の基礎知識」を受講しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的訓練はしていないものの、緊急時対応のマニュアルを作成し職員に徹底している。職員の多くが「AED」使用の訓練を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は「昼間の避難訓練」のほか「夜間の避難訓練」も行い、避難方法についていろいろな場面に対応した方法を検討している。地域自治会の防災担当とも協力関係を築いている。	緊急時対応マニュアルと職員間連絡体制表を事務室に掲示しています。LINEでの連絡も活用しています。年2回本社の危機管理室担当者(消防関係)と伴に、昼間と夜間を想定した消防・避難訓練を実施し、松戸消防署に「訓練実施届出書」を提出しています。避難訓練には町内会長も参加してもらい、自治会広報誌にその様子を掲載してくれるなど協力関係が築かれています。非常食・備蓄品リストもあります。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が利用者に話かける場合には、敬語を使うことを原則としている。また、言葉かけの関わりについては、職員ミーティングでテーマに取り上げ勉強している。	職員が利用者に話しかける場合に必ず敬語を使って言葉をかけています。職員全員「敬語について」の研修を受け不適切な言葉かけのあった職員にはその場で施設長が注意をし徹底しています。職員は利用者一人ひとりの思いを尊重し、無理強いしない、好きなことに集中できる時間を作るなど自由に過ごせるよう配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護は、本人の思いに耳を傾け、その希望を理解することから始まるものであることを職員たちは理解しており、これを実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームの定員が少人数(9名以下)であることを活かし、集団生活ではなく、一人ひとりの生活スタイルを可能な限り尊重した支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容については、地域の美容院と提携し地域の人と同じ美容師さんにやってもらっている。本人の希望があれば、美容院の椅子に座っての美容も支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員と一緒にとり、食事の配膳・下膳・食器洗い・収納なども利用者と職員が一緒に行っている。	食事は同法人の有料老人ホームから副菜と味噌汁の提供があり、ホームでは主食を用意しています。食事の配膳・下膳、食器洗い・収納などは残存能力のある数名の利用者と職員が一緒に行っています。年に数回お楽しみ行事食で「みんなでパンケーキを焼きましょう」(クリスマス会)、焼きそば(夏祭り時)、誕生日会ではお赤飯、3月は郷土料理の提供があります。水分チェック表(バイタル・食事・水分補給)にて細心の注意を払っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事の献立は栄養士が作成しており、カロリーバランスのとれたものとなっている。食事の量は各自の状態に合わせるよう調整している。水分補給には細心の注意を払っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを励行。独りで歯磨きのできない利用者に対しては、歯磨き介助を行う。義歯は洗浄剤を用いて洗浄している。必要に応じて、歯科衛生士による口腔ケアを受けることができるようになっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各居室にはトイレが設置されており、自分のペースで自由に排泄ができる。本人の排泄サイクルを把握し、適切にトイレに誘導することで尿失禁やおむつの使用をなくすようにしている。	各居室にトイレが設置されているので、利用者は自分のペースで自由に排泄できます。職員は排便・排泄時間チェック表にて利用者の排泄サイクルを把握し、適切にトイレに誘導することで尿失禁やおむつの使用をなくすように援助しています。夜間での排泄支援対応はトイレの傍にベッドを近づけたり感知センサーを使うなど工夫しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が及ぼす影響については全職員が理解している。排便チェック表で確認をしながら、水分補給・ヨーグルト・牛乳など個々に応じた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、基本的には週2～3回のペース。本人の身体の状態をみて変更することもあり。入浴の順序の希望に応ずることはできるものの、入りたいときに入るとい希望には沿えていない。	入浴は基本的には週2回(夏はシャワーも追加する)午後に楽しむことができます。利用者の体調を見て日にちの変更をしたり、入浴順番の希望に応じたりと対応していますが、例えば、利用者の夜に入りたいなどの希望には沿えていません。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が横になりたいときには、いつでも自分の居室に戻って横になれるよう支援している。居室における温度・湿度調節については絶えず注意を払っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すべての職員が服薬の業務を担当することになっており、各利用者の服用している薬について細心の注意を払って支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	絵を描くのが好きな人、歌を歌うのが好きな人、書道の得意な人など多彩な才能の持ち主が多く、得意なものを活かす工夫を支援している。家事の手伝いについても本人の経験を配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ベランダで過ごしたり、近道を散歩したりしている。紅葉や桜の時期にはみんなで見学に出かけている。施設から離れた場所の希望については家族に協力をお願いしている。	利用者はベランダで過ごしたり、ホームの周辺を散歩しています。また、同法人のデイサービスのワゴン車を利用して、利用者皆さんで紅葉や花見などに出かけています。家族と食事会に出かける利用者もいます。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は、原則として本人の手許に置かないこととしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への連絡に関しては、本人の依頼を受けて職員が電話をかけ、そのうえで本人が電話口に出て会話ができるように支援している。ハガキ・切手等は常時購入してある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関入り口横のミニ花壇や庭に張り出したウッドデッキなどに季節の草花を配置し季節感を演出している。リビングルームは、直射日光が入らないようレースで遮断し、BGMを流すようにしている。	職員により玄関横のミニ花壇やウッドデッキなどに季節の草花を育て季節感を演出しています。地域住民から提供してくれた花の作品を飾っています。壁面装飾作りに参加する利用者もいます。テレビ映像を流すことを控え、BGMを時間帯で変えるなどして利用者が心の安定を図れるよう工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームには、ダイニングテーブルのほか、ソファを設置し自由に利用できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居にあたり本人の使い慣れた品々、馴染みの家具等をお持ち頂くようお願いしている。居室には思い出の写真、趣味の絵を飾り、自由に過ごせるよう工夫している。	入居する時は本人の使い慣れたものや馴染みの家具などを自由に持ち込んでいます。居室の壁に趣味の手芸作品や絵を飾り、思い出の写真も置いて自由に好きなように過ごせるよう工夫しています。職員は利用者が自分の居室がわかるように必要に応じて名前を大きく掲示したり、その人に合ったものを用意しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はバリアフリーになっており、廊下・トイレ・浴室などに手すりが設置されている。		